高齢化と組合員組織

１．はじめに

本誌2001年８月号の内田論文にあるとおり，戦後の日本農業を支えてきた昭和一けた世代は2000年以降すべて65歳以上の高齢者層となった。農家の高齢化とともに農協の正組合員の高齢化は進み，農協の組合員組織にも高齢化の影響がみられる。

筆者は，農家の高齢化が最も進んでいる中国地方（2000年における農家世帯員に占める65歳以上の高齢者の比率32.3%）にあるＡ農協において，組合員組織についてヒヤリングする機会を得た。

Ａ農協は組合員数約２万人，貯金残高約１千億円の比較的大規模な農協であり，管内には工業都市から中山間地域までを含む。Ａ農協の組合員組織には，集落を基礎とした農事組合，作目別部会，女性部，年金友の会等がある。以下，作目別部会のうち，たまねぎ生産部会，茶業組合及び女性部について，高齢化の影響を中心に紹介したい。

２．作目別部会

(1)　玉ねぎ生産部会

Ａ農協Ｂ地区の玉ねぎ生産部会の会員は現在27戸である。会員は，生産のほぼ全量を農協を通じて共同出荷している。この一帯は県から玉ねぎの認定産地に指定されており，販売価格が基準価格を下回る場合には，県の青果物生産出荷安定基金協会から基準価格までの価格補填が生産者に支払われ，農業経営の安定がはかられている。

生産部会は，①生産技術の情報交換，②先進県の視察，③共同出荷のための規格遵守の確認，④農協への種等の注文の取りまとめ等を行っており，農協では指導部が部会の窓口となっている。

会員の中心は65～70歳。夫婦どちらかの体調悪化を機にリタイアすることが多く，一時は40戸程度だった会員は27戸に減少した。リタイアで作付面積は減少している。認定産地の条件に作付面積(農協共販面積５ha以上)があるため，このままでは認定産地でなくなることも懸念される。

このため，生産部会では，会員に作付面積の拡大を呼びかけているが，高齢のため規模拡大には取り組みにくい。また定年帰農者等に玉ねぎ生産を勧めても，収入や技術面がネックとなり難しい状況である。

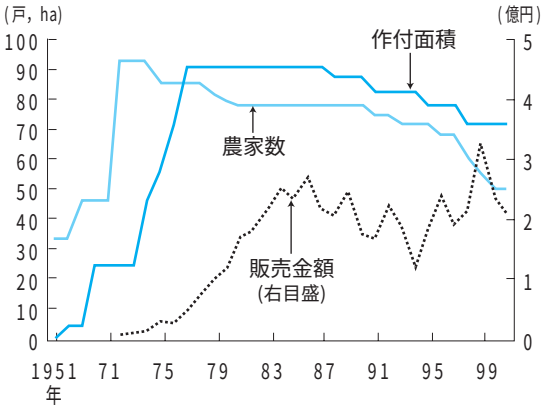
(2)　茶業組合

Ｃ茶業組合は，13年度現在会員数50戸，荒茶生産量172トンという，県内有数の茶生産団地の生産部会である。

Ｃ茶業組合は，機械化や茶園造成等を計画し，また茶の加工場の処理能力に応じて摘栽時期を計画・規制する。加工場，大型機械，貯蔵施設等の共同利用施設は農協の資産であり，組合員農家は茶業組合を通じ利用料を農協に支払う。営農指導員が技術指導を行い，生産物は農協に委託販売する。組合員農家は圃場管理と摘栽を行う。

組合員数は1990年まで78戸であったが，50戸まで減少した。組合員の年齢は60歳代

C茶業組合の農家数，作付面積，販売金額の推移



資料　C茶業組合「50年周年のしおり」

が中心である。

茶生産地としての現在のブランドを保つには作付面積の維持が必要であるため，茶業組合では，小作権の移動による農地の流動化と，補助事業を活用した機械化を進めており，2000年には乗用摘採機８台を導入し省力化をはかった。図のとおり，農家数の減少ほど作付面積は減少しておらず，販売金額は年ごとの変動は大きいもののほぼ維持されているといってよいだろう。

３．女性部

女性部では，料理・手芸・野菜づくり等の講習会，女性部運動会，JAまつりへの参加等の活動を行っている。女性部のなかに野菜づくりや助け合い組織等のグループもある。活動には農協の生活文化指導事業費から予算がつき，農協のふれあい課や支所の担当者が活動を支援するが，活動内容は部員の自主性に任されている。

女性部の抱える問題としては，まず世代交代が進まないことがあげられている。女性部は60～70代が中心で，フレッシュミズも50代が中心である。また，農協支所ごとに女性部の支部があるが，15支所のうち３支所では役員のなり手がおらず支部がなくなった。女性部への参加を勧めても，パートタイム等で働く女性が多く，リタイアしても孫の世話があり，参加する時間がないと断られることが多い。

このため，女性部では，①高齢者はエルダー会に移ってもらい世代交代を促す，②支部がなくなったところには「少人数から立ち上げよう」と声をかける，③講習会の案内は，農事組合（正組合員世帯で構成）を通じ回覧をするが，回覧には「お誘い合わせのうえ」と書き，また有線放送により組合員以外にも案内を行う，等配慮をしている。

エルダー会への勧誘は声を掛けにくく，また，新たな支部づくりも役員のなり手がなく難航している。一方，農家以外の女性でも積極的に女性部の活動に参加する人がでてきており，正組合員家庭に限定しない勧誘の効果はでてきているようである。

４．むすび

以上のように農家の高齢化の影響は組合員組織にも色濃く現れている。生産部会は会員数が減少し産地の維持が懸念されており，女性部でも世代交代等が進まず，組織の活性化が必要な状況がうかがえる。

こうしたなか，各組合員組織で様々な取組みが行われており，生産部会での農地流動化や機械化，女性部会での正組合員以外を活動の対象とする動き等が効果をあげている。

現在これらの組合員組織の中心メンバーは60～70代であり，今後数年間で高齢化の影響はますます顕在化することが予想される。協同組合活動の基盤である組合員組織の活性化は，農協にとって喫緊の課題であろう。

（斉藤由理子・さいとうゆりこ**）**